

医療と介護の連携で
あなたらしい暮らしを支えます

在宅医療について考えてみませんか

高齢化によって、これからは医療や介護を必要とする人がますます増加することが予測されます。厚生労働省では、住み慣れた環境でできるだけ長く過ごせるよう、また「人生の最期は自宅で迎えた」と望む人がその想いを実現できるように、「在宅医療」を推進しています。

町でも、医師会をはじめとした医療や介護の専門職種の方々とともに、自宅での療養を支えていくための取組みを推進しています。



在宅医療とは

在宅医療とは、自宅などの住み慣れた環境で医療や介護を受けながら在宅生活を送ることです。

医師、歯科医師、看護師、薬剤師、歯科衛生士、リハビリ専門職、ケアマネージャー、ホームヘルパー等の医療と介護の関係者が一体となり、病院への通院が難しい方や自宅での療養を希望する方の在宅生活を支えます。

在宅医療・介護連携 推進会議「なすの輪会」 の取組み

町では昨年、在宅医療に関わる専門職、行政職員等30名で構成された「なすの輪会」を立ち上げました。在宅医療を希望する人が安心して療養できるように、在宅医療の推進に取り組んでいます。

なすの輪会では、在宅医療推進の体制づくりに向けて3つの事業に取り組んでいます。

- ①住民啓発 住民の皆さんが、より身近に在宅医療を考えられるよう啓発活動を進めます。
- ②支援者研修 より質の高い在宅医療を提供するため、支援者を対象とした研修会を開催します。
- ③多職種交流 医療や介護の専門職が連携しやすい環境をつくるため多職種交流を図ります。



【多職種交流会の様子】在宅医療を進めていくうえでの課題やその対応方法等について、さまざまな視点で話し合っています。

今年度は住民向け出前講座、多職種が集まる研修会や交流会の企画・実施など、さまざまな活動を行いました。今後も在宅医療に関する講座や、研修会を行っていきます。

いつかに備え 在宅医療を受けるために

○かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医を決めておくことで、日常的な診療のほか、病状によって適切な医療機関を紹介してくれます。また、健康に不安を感じたときに気軽に相談することができます。

○家族と話し合っておきましょう

誰しものがいつか迎える人生最期のときについて、最期まで自分らしく大切に生きるために、元気なうちから家族や周りの人と、自分がどこでどのように過ごしたいのかを話し合っておきましょう。意志を伝えておくことが大切です。

▼問合せ 保健福祉課地域支援係 ☎76910

町の地域医療の現状



なすの輪会
塩田章人会長
(塩田医院 院長)

日本の高齢化率は世界第1位です。現在の日本では約80%の方が病院で亡くなっていますが、今後は死者数の増加に対して病院のベッド数の増加は見込めず、2040年には49万人分の看取りの場所が不足するという試算も出ています。本町の高齢化率は県内で2番目に高く、まさに待ったなしの状況と言えます。決定的打開策がない中で私たちができることは、多職種で連携し、ご本人やご家族を含めたチームを作り、自分らしい生活が維持できるように支援していくことです。

しかしながら、在宅医療はさまざまな理由で思うようにいかないケースもあります。そんなときは、担当のケアマネジャー、地域包括支援センター、町の保健福祉課にまずは相談してみてください。ご自分達では思いもつかなかった解決策が見つかるかもしれません。住み慣れた場所で最後の看取りまで寄り添えるよう、みんなで一緒に考えましょう。